

琉球・沖縄 年中行事 Q&A

白木位牌倒しについて



●Answer

 沖縄市・コザ山 球陽寺 前任職
 帰依 龍照(きえりゅうしょう)

Q 昨年、親戚のおじさんのお葬式がありました。お正月には、祭壇にあるおじさんの名前が書かれた木のお札に、白い包帯のようなものを巻いて倒しなさいとおばさんたちに言われましたが、どんな意味があるのでしょうか？

(那覇市・Uさん)

A それは「シルイフェー」である。「シルイフェー」あるいは、「シルイフェー」カクシ(白木位牌隠し)といわれる、沖縄の民間儀礼だと思えます。どの家庭でも必ず行われるとは限りませんが、沖縄の儀式や法要に詳しい方ならご存じのしきたりです。

Uさんの言われる「木のお札」は、白木製や、白い紙を貼り付けた「シルイフェー」と呼ばれる位牌のことです。沖縄では亡くなった方のシンジュークニチ(四十九日)までは、これを祀ります。そしてシンジュークニチを迎える前に年があらたまる場合、「悲しみを翌年にまたがせない」との思いから、位牌を横にした(白木位牌倒し)、白い紙などで隠して(白木位牌隠し)、一時的に喪中ではないとみなす習慣があります。この期間、遺族にとっては喪中にあたり、1年、ある

いは3年(実際には2年目の三回忌)が経過しないと喪は明けません。それでも沖縄では、新年に訪れる親族や焼香客の方には、新しい年を新たな思いで迎えていただきたいとの気遣いから、このようなしきたりが生まれたとされています。では、私が経験したシルイフェーダオシの数例を紹介いたします(宗派によって行わない場合もあります)。

●シルイフェーを、タヒラハン(二枚半・15本)のヒラウコー(平御香)の煙にかざし、正面と裏面に書かれた文字を隠しながら、シルカビ(白紙)を丁寧に巻きつけて輪ゴムで留めます。そしてイフェーヌメー(位牌の正面)を上に向け、イフェーヌメー(位牌の頭頂部)を左に向けて倒します。

●コップに準備した塩水(海水の代用)で、シルイフェーを3回にわたって清めます。そして正面と裏面の文字を隠しながら、アルミホイルを丁寧に巻きつけてスキの葉で結び、シルイフェーを立てたまま、イフェーヌメーを後に向け直します。

●シルイフェーを、遺影の裏に隠す作法。



白木でつくられたシルイフェー

このように、シルイフェーを倒したり隠したりする考え方の根底には、故人の供養をイチミ(生身・私たちが世界のこと)の都合で短縮することがないように、との思いがあります。

最近では、ハチ

ナンカ(初七日)の当日に、シンジュークニチまでの供養を同時に行う家庭も増えてきました。Uさんのご親族は、シンジュークニチを定められた通りに行いたいと判断されたのでしよう。そのため、元日だけはシルイフェーを隠して悲しみの状態をひと区切りと考え、定められた大切な49日間を供養することにされたのです。

おばさんが言われた「白い包帯のようなもの」は、白色がシルカビなどと同じように、白いフニシン(遺骨)を表現するからとも言われています。

ハチナンカとシンジュークニチを同時に行うか否かは、喪主や遺族の判断です。忙しい現実社会に対応するためでもあり、部外者が口を挟むべきではありません。「奇数のシチビに抱かせる」と表現されるしきたりもあ



あるご家庭の四十九日の法要

ります。これは、奇数である第1週のハチナンカ、第3週のミナンカ(三七日)、第5週のクナンカ(五七日)の供養を同時に行う方法。どうしても都合がつかない事情がない限り、マドウナンカ(間七日・偶数のシチビ)では行わないようです。

沖縄の昔ながらのしきたりに詳しいおばさんたちとお付き合いできることは、Uさんにとって、大きな財産だと思えます。「ナラーチキミソリヨータイ(教えてください)」と、自ら進んで学ぶ機会を得られるのは、とても素晴らしいことですね。

シルイフェーダオシは、新暦、旧暦のいずれの正月に行ってもよいとされています。2016年の旧正月は2月8日です。該当される故人がいらっしゃるご家庭では、この習慣を検討されてもいいかと思えます。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。